



環境学習市民連合大学

環境楽習会

環境学習原論

第2回 心の機能



心の機能の進化と人新世、
街づくりとエネルギー・食料の自給活動・
環境学習都市小金井

ファン・ゴッホの手紙



二見史郎編訳
関府寺司訳

みすず書房

The Principles of Learning Environment

こころへの旅路

Inner transition for our happy future

土の時代から風の時代へ

素のままの美しい暮らし sobibo

木俣美樹男2021.9.5.

『春と修羅』

宮沢 賢治

前回の復習と参考資料

主な発言

人新世の定義

野川周辺の遺跡と信仰環境



吾唯足知（仁和寺のつくばい蹲）

環境問題は本質的には人間の文化的進化、心の問題です。
世の中をより良く変えるのは、さらに深い環境学習です。
花のように生きた日本人（ゴッホ）はどこに行ったのだろうか？

第1回座談会での主な発言

- 経済のあり方を考え直したい。
- 河川、水について広く考えたい。
- 小金井には自然的環境や文化的場所が多くある。
- 東京の人たちはウィルスについてどのように思っているのか。
- 心と体のつながりについて話し合いたい。
- 市民農園などについて話したい。
- 遊びをテーマにしてほしい。
- 子どもの野外活動は見守ってほしい。
- 人類の欲望についてどのように考えるのか。
- 学校でなく、地域社会での学習があると良い。
- 明治維新、敗戦によって、心の問題を間違えてきたのではないか。
- 環境問題は文明の問題、地域とグローバルをつなげるべき。倫理について考える。
- 小金井の環境問題として、都道に問題意識を持ってほしい。

人新世の定義：

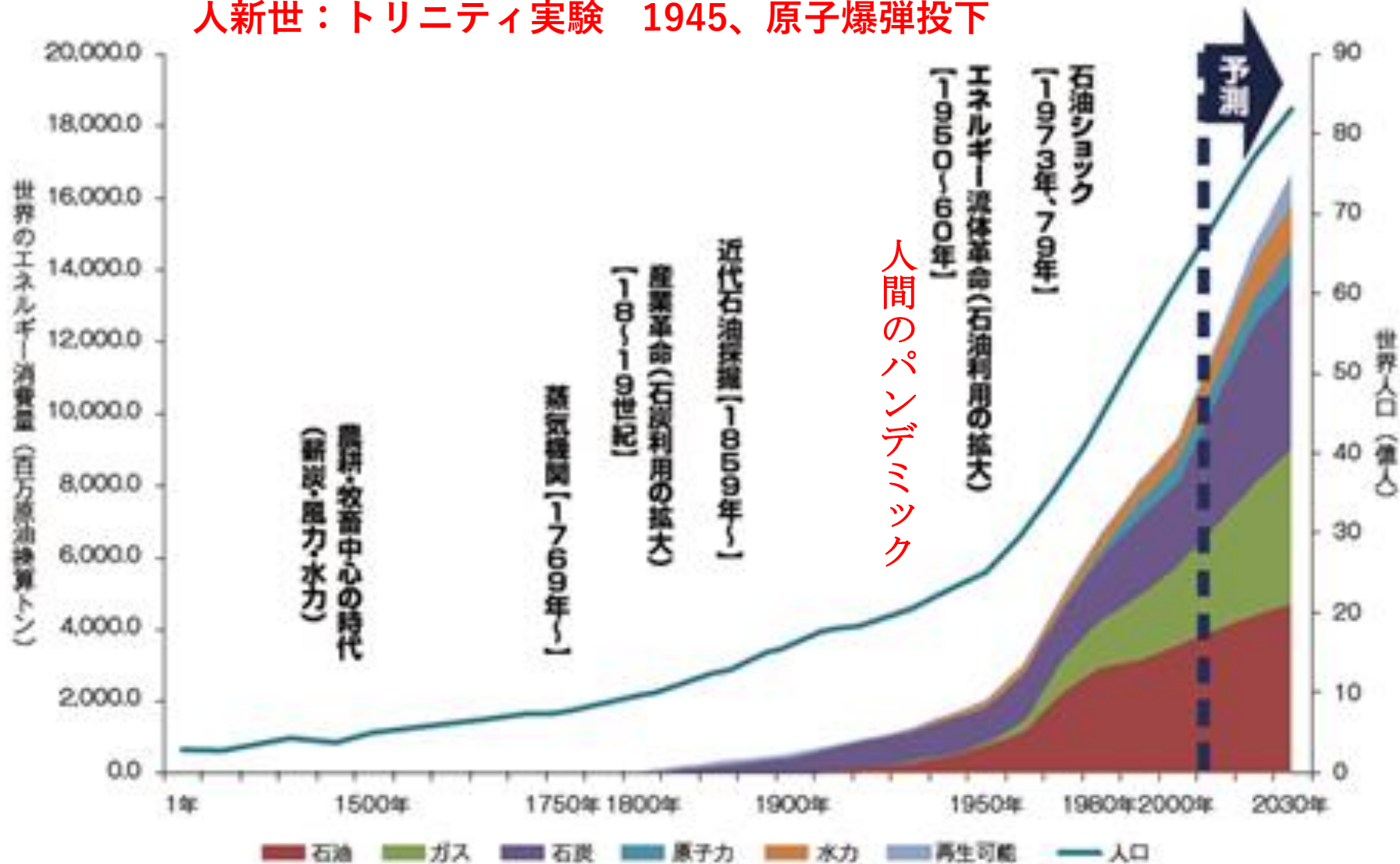
人新世**Anthropocene**とは、人類が地球の地質や生態系に与えた影響を発端として提案された想定上の地質時代である。人新世の特徴は、地球温暖化などの気候変動、大量絶滅による生物多様性の喪失、人工物質の増大、化石燃料の燃焼や核実験による堆積物の変化などがあり、人類の活動が原因とされる。2019年6月時点では、層序学会において議論継続中、1945年のトリニティ実験が他の案よりも有力である。

＊国際層序委員会ICSでは第四紀層序学小委員会の人新世ワーキング・グループAWGで検討。

＊人新世とは資本主義が生み出した人工物、負荷や矛盾が地球を覆った時代である。
(斎藤幸平2020、人新世の資本論、集英社)

＊過去七万年間は、人類の時代を意味する人新世と呼ぶ方がふさわしいかもしれない
(ハラリ, Y. N. 、2015)

第四紀完新世 ⇒
人新世：トリニティ実験 1945、原子爆弾投下



人口制御

自然災害

地震、津波
台風、洪水、土砂崩れ
火山噴火
山野の火事、雷
旱魃、病虫害
(寒冷化、乾燥化)

気候変動 < 地史 + 人為 >

温暖化、寒冷化、
砂漠化

人為災害

戦争
飢餓、飢饉
感染症
公害、大気・水汚染、
放射性物質汚染
支配権力闘争
差別迫害、
民族・人種・職業

(出典) United Nations, "The World at Six Billion" United Nations, "World Population Prospects 2010 Revision" Energy Transitions: History, Requirements, Prospects BP Statistical Review of World Energy June 2012 BP Energy Outlook 2030: January 2013

人新世：日本での出来事を中心に

暦年	原子力関係	国連宣言	人為災害	自然災害	世界的流行	情報通信
1945	トリニティ実験、原子爆弾の広島・長崎への投下		第2次世界大戦後、化石燃料の使用増大、二酸化炭素排出量急増（1950's）、温暖化		人口爆発、家畜飼養数の増加開始（1950）	テレビ放送開始（1953）
1948		人権宣言				
1954	ビキニ環礁水爆実験、第5福竜丸など被曝		水俣病（1956）、新潟水俣病（1964）、イタイイタイ病（1910~1970's）、四日市喘息（1959~1972）	伊勢湾台風（1959）	アジアかぜ（1957）	
1963	東海村の動力試験炉JPDR初発電		緑の革命（1968）		香港かぜ（1968）	
1970	核拡散防止条約					
1972		人間環境宣言	ヴェトナム戦争終結（1975）			
1979	スリーマイル島原子力発電所事故		遺伝子組み換え（1980's）		後天性免疫不全症候群（1984）	インターネットの普及（1982）
1986	チェルノブイリ原子力発電所事故		アメリカ同時多発テロ（2001）	阪神・淡路大震災（1995）	牛海綿状脳症（1986）	
1993		生物多様性条約				
2007		先住民権利宣言	ゲノム編集（2005）、ピークオイル（2006）			SNSの普及（2004）
2011	福島原子力発電所炉心溶融		放射性物質拡散（2011）	東日本大震災（2011）、御岳山噴火（2014）	鳥インフルエンザ（2005）、豚インフルエンザ（2009）	
2017	核兵器禁止条約			台風18号（2015）	急性呼吸器疾患（2019）	
2018		小農権利宣言				人口知能AI（2020）、ビッグ・データ
			人為的環境変動	地史的環境変動		

20世紀の主な飢饉による餓死者数

西暦	地域	原因	餓死者数
1900	インド	旱魃	250,000～3,250,000
1918	ドイツ	第一次世界大戦、凶作、カブラの冬	762,000
	世界	戦死者	8,529,000
1921	ロシア	旱魃	5,000,000
1928	中国北部	旱魃	3,000,000
1932	ウクライナ	ホロドモール、政策	2,600,000～10,000,000
1932	カザフスタン	ウクライナに連動	1,200,000～1,500,000
1936	中国	旱魃	5,000,000
1941	ロシア	ドイツ軍の包囲	1,000,000
1941	ギリシャ	ドイツ軍の占領	300,000
1942	中国	河南飢饉	} 日本軍の侵攻 2,000,000～3,000,000
1943	インド	ベンガル飢饉	
1944	オランダ	第二次世界大戦、飢餓の冬	22,000
1945	世界	第二次世界大戦	20,000,000
	世界	戦死者	19,500,000
1944	ソ連	レニングラード封鎖70万人以上	1,000,000～1,500,000
1947	ソ連	凶作、付属地の制限	1,000,000～1,500,000
	中国	大躍進政策	36,000,000
1965	インド	旱魃	1,500,000
1968	サヘル	旱魃	1,000,000
1975	カンボジア	クメール・ルージュ政策	2,000,000
1996	北朝鮮	水害、苦難の行軍	220,000～3,500,000
1998	コンゴ	内戦	3,800,000
1732	日本享保	凶作、イナゴ襲来	1,000,000
1782	日本天明	凶作	1,100,000
1833	日本天保	凶作	300,000
1930	東北	凶作	不明
1945	国内外	第二次世界大戦	850,000～1,400,000
	日本	戦死者(上記を含む)	} 日本軍の侵攻 3,100,000
1946	国内	敗戦後、凶作	不明
1993	東北	凶作	0

wikipediaで人数書きされている事例
L.Collingham2011ほか

2021年8月9日午後7時にまとめた統計によると、世界の新型コロナウイルスによる死者数は429万4735人に増加した。

野川流域、小金井周辺の遺跡と信仰環境

- 縄文時代などの遺跡：

勝坂式土器（縄文中期）、恋ヶ窪遺跡（縄文）、貫井遺跡（縄文）、西之台遺跡、中山谷遺跡（縄文）、野川中洲北遺跡（旧石器）、荒牧遺跡（旧石器）、貫井南遺跡（縄文）、栗山遺跡、坂上遺跡（縄文）、出山横穴墓群

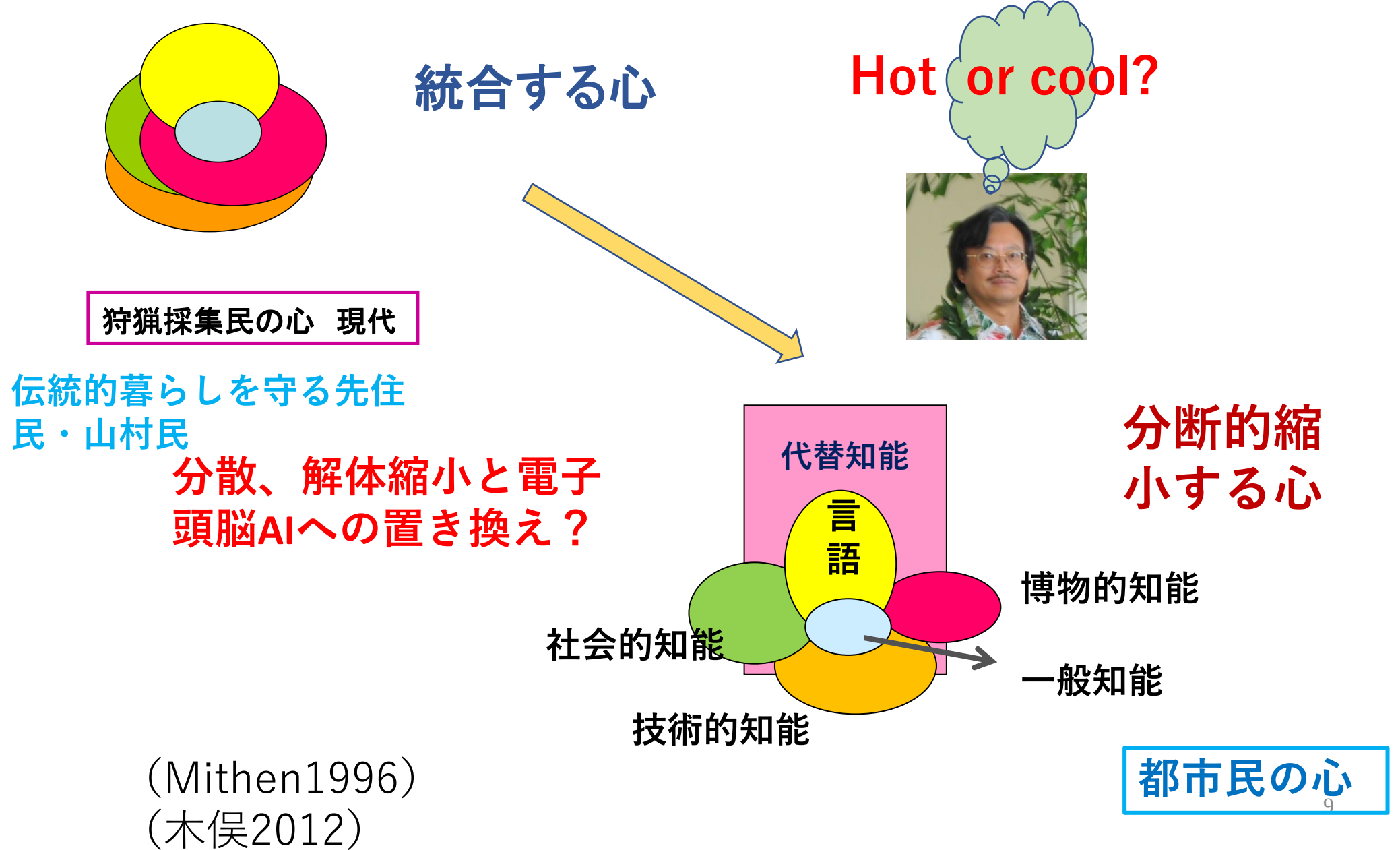
- 信仰環境：

武蔵国分寺、平安神社、貫井神社・上弁天、大沢神社、下弁天、幡随院、金蔵院、西念寺、小金井神社、龍源寺、
宗教団体教会や会館

（村松昭 野川散策絵巻）



心の構造：狩猟採集民と都市民の比較



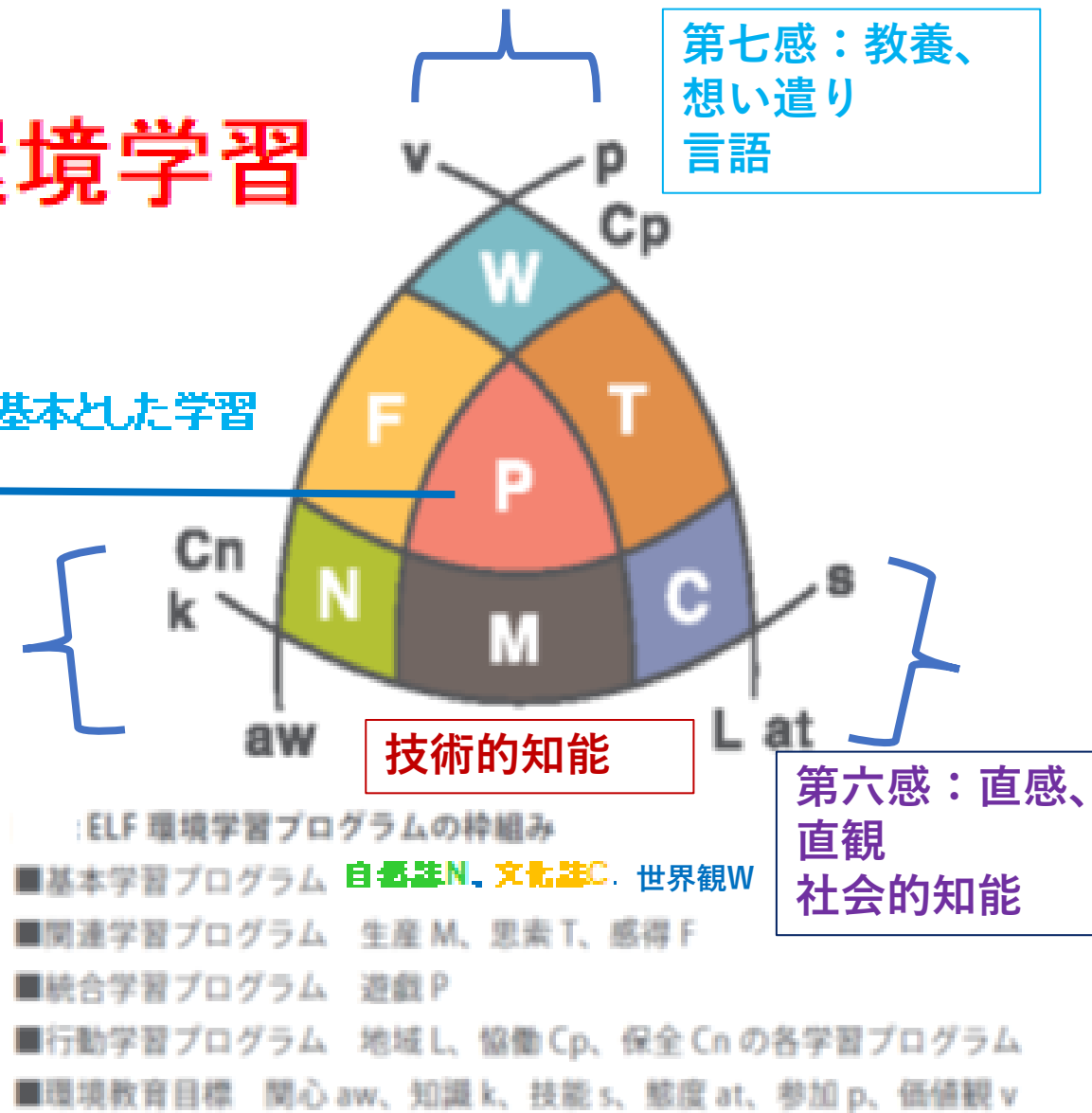
ELF環境学習 過程

自然の三相を基本とした学習

統合：遊び・趣味・美学
一般知能

五感：感性
博物的知能

一般知能
社会的知能



自然と文化を学び、考える

素のままの美しい暮らし
Sbibo

美意識
やまとたましひ

直接体験：自然に帰る、生業を学ぶ、地域で動く。間接体験：読書で歴史に学ぶ。

心の機能

構造（知能）間の認知流動性

- 心を支える体（五官）の衰微 事象感知 美
五感：視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚
⇒ 華道、雅楽、茶道、和食、香道、など
- 退化する機能 危機感、安全、猶予 真
第六感：直感、直観
⇒ 俳句、和歌、浮世絵、能・狂言、など
- 未発達な機能 倫理観、人生観 善
第七感：良心、教養（思い遣り）
⇒ 信条、信仰、学問、など

聖俗の樹（人格形成をたとえる）

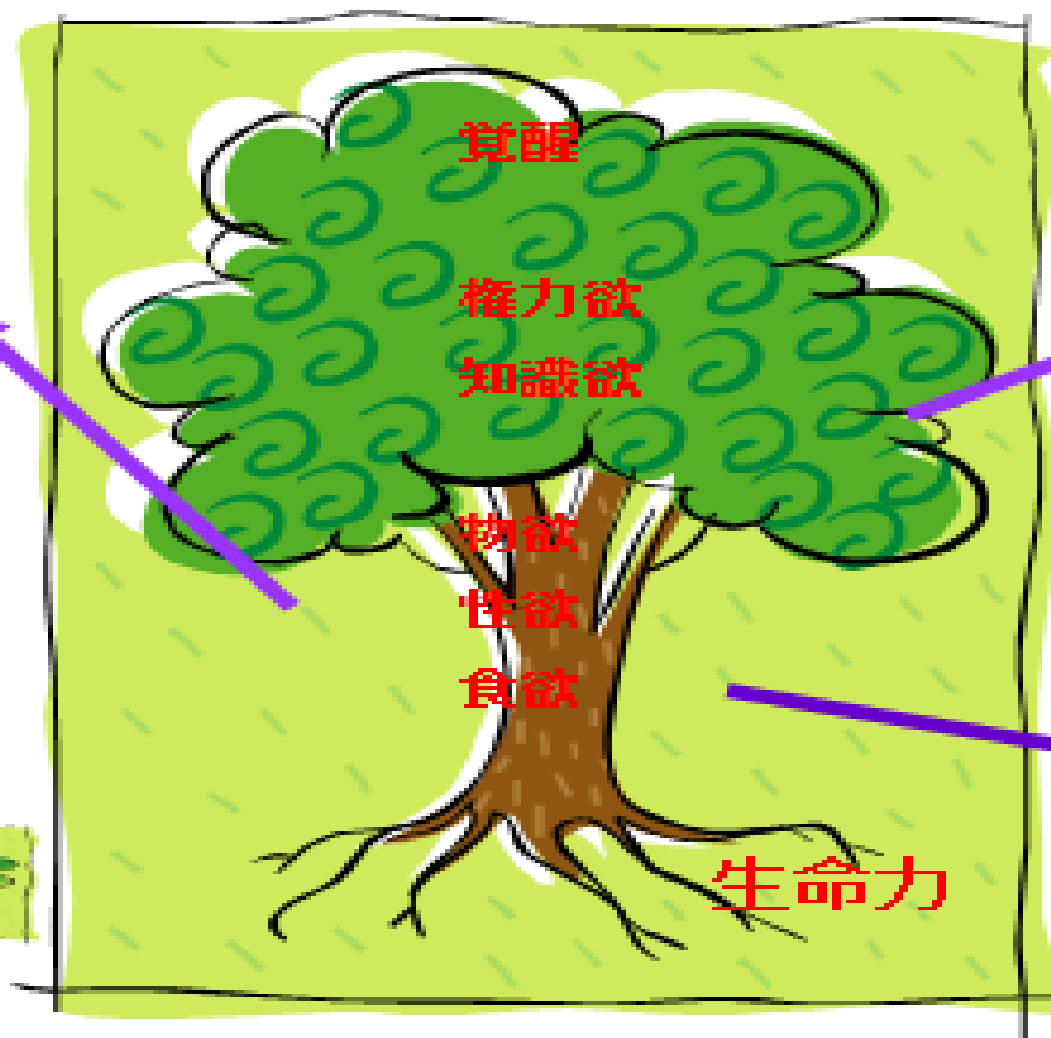
文明

生産
消費
廃棄

政治
軍事
財貨
産業



多様な人格形成



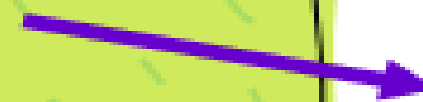
自由
博愛
正義
平等



信仰
思想
学問

文化

恋愛
生業



自然からの乖離⇒各知能の分断：

根本的な、本質的な思考をしない

- 心が進化すると、認知流動性が高まり、狩猟採集民に見られたように、各知能が統合される。
- 現在の都市民：各知能が分断縮小して、認知流動性が低下すると、大聖堂の中の小聖堂の壁が厚くなり、バカの壁ができる。
- 現実態から逃走して、仮想態にこもる。アバターではなく自ら体験したい。
- 心の奥底まで探して、心の構造と機能について深く学び、改善へと移行する。
- 流行不易の均衡、素のままの美しい暮らし

認知流動性

心身合一から心身乖離に向かう。

自然は世界の半分、身体性への怠惰、衰微（養老孟司）

小聖堂の壁が阻害する。

バカの壁 = 知っていることしか知ろうとしない。

言葉への信頼が失われる。 語義、言霊、呪縛、定義

学びからの逃走、自由からの逃走。 ⇒楽しむ

自由

ムラ社会の慣習、結界をつくる。

⇒解く

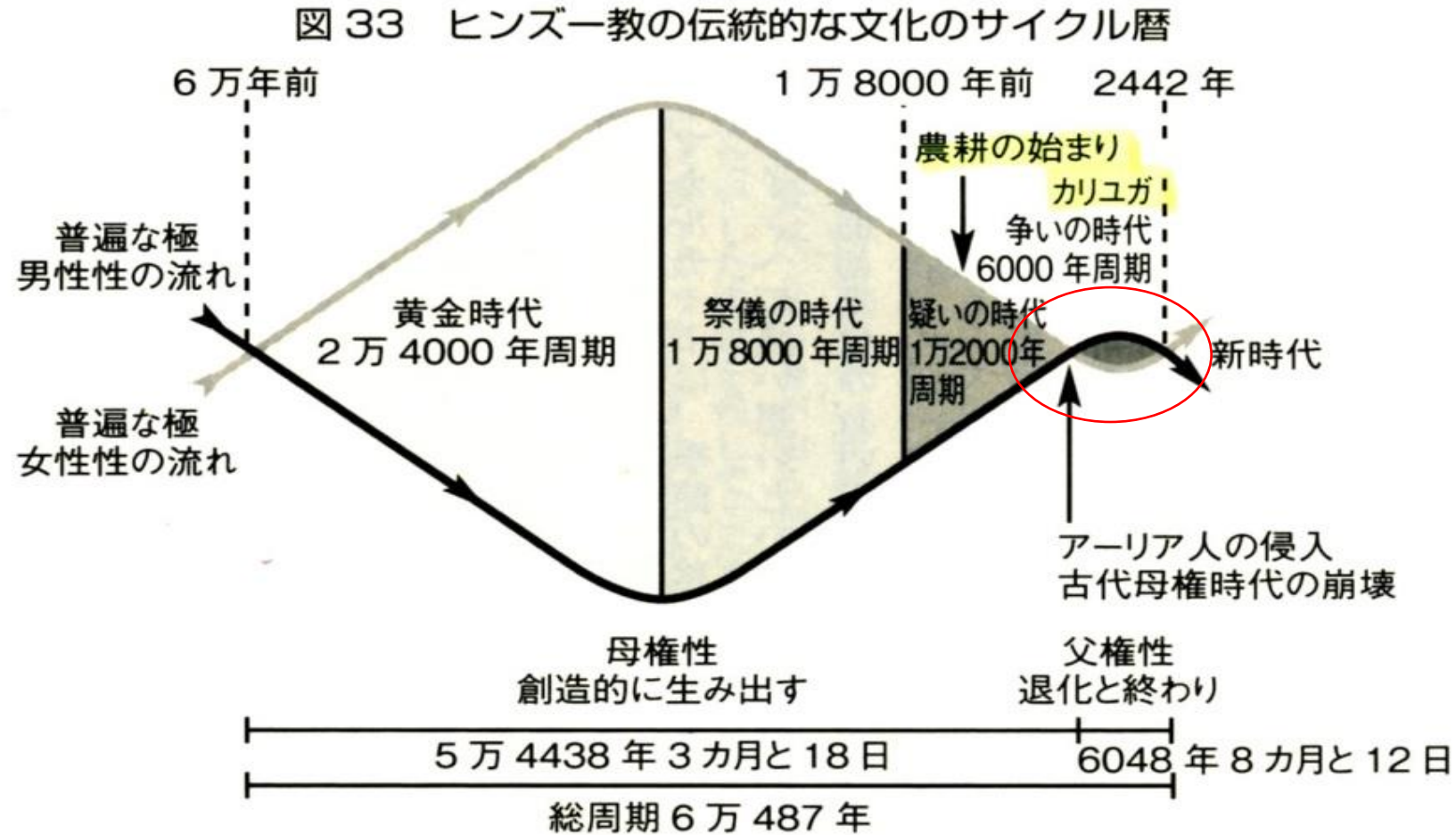
平等

忙しい、自分から出ない、つながらない。

⇒つなげる

友愛

生き物の文明への移行



(出典) R. Lawlor, *Voices of the First Day: Awakening in the Aboriginal Dreamtime Inner Traditions*, 1991. (ロバート・ローラー著、長尾力訳『アボリジニの世界——ドリームタイムと始まりの日の声』青土社、2003年)。

汚れない純質、平等観、大覚悟道、無情の法悦があまねく満ちわたるとき、これが宇宙の第一期、真理の時代サッテャユグの特徴とお心得ください。

全体として生類が日常の営為を大切にし、慎み深く平和に暮らすのが、第二期ツレタユグの特徴です。

大衆の心に喜悦と恐怖が交錯するのが、第三期ドアパルユグの特徴です。

四方八方、敵意、害念、怨嗟に包まれ、だれもが恐怖と苦痛にさいなまれて片時も心休まるときがないのが、末世カリユグの際立つ特徴です。末世には梵行、祈禱、悟道は絶え果てます。純粹な信仰心があれば、末世にまさる恵み豊かな、祝福された時代はないのです。

『ラーマヤン』より

- 千と千尋の神隠し（宮崎駿・スタジオジブリ2001、徳間書店）
真実の名前が大事、ネバーエンディング・ストーリーも同じ

- 個人的に小金井に当てはめ、作者のイメージ源を想像してみた：

ハク・竜（ニギハヤミコハクヌシ）は野川。

家並みはハケの道。森の出口は是政線下のトンネル。

ゆうれい電車はたてもの園の都電7500形。

海原電鉄は是政線で、海は野川公園の芝地。石人は馬頭観音。

湯屋はたてもの園の子宝湯、食堂街も下町中通り。

* こきんちゃん、えどまる

高村薫、我らが少女A；野川公園が主な舞台。

大岡昇平、武蔵野夫人；ハケが主な舞台。

阿修羅

ジョージ秋山：アシュラ、ザ・ムーン

宮沢賢治：春と修羅

萩尾望都：百億の昼と千億の夜

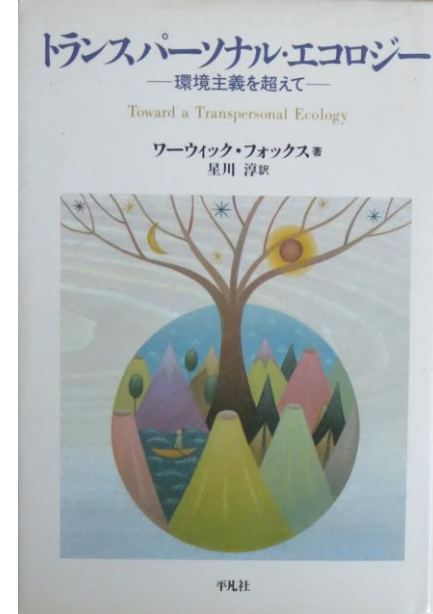
ひろさちや：わたしの中の阿修羅

吾峠呼世晴：鬼滅の刃

養老孟司（2018）：中井準之助「教養とは、人の心がわかる心だ」、東京人。

第七感：教養・良心、感謝、思い遣り

スタウト（2005）：サイコパス（毒をもつ人間）は自分が道徳や倫理に反した行為や、怠惰、利己的と思える行為を選ぼうとしたとき、それを抑えようとする内的メカニズムに欠けている。おおよそ九六パーセントの人には良心はあまりに当たり前で、意識もしないうちに働くから、いかに想像力を働かせても、良心のない人間の姿を思い浮かべることはむずかしい。





長野善光寺の六菩薩像、左から3番目が修羅道の菩薩さま。

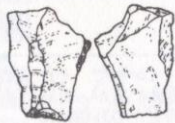
天道、人間道、修羅道は三善趣、畜生道、餓鬼道、地獄道は三悪趣

タイの精霊信仰

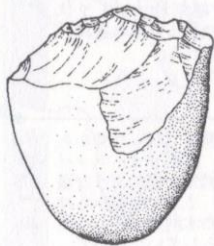


小道具…

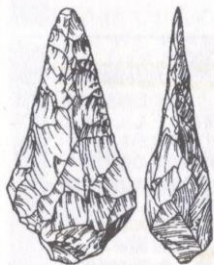
最初の石器



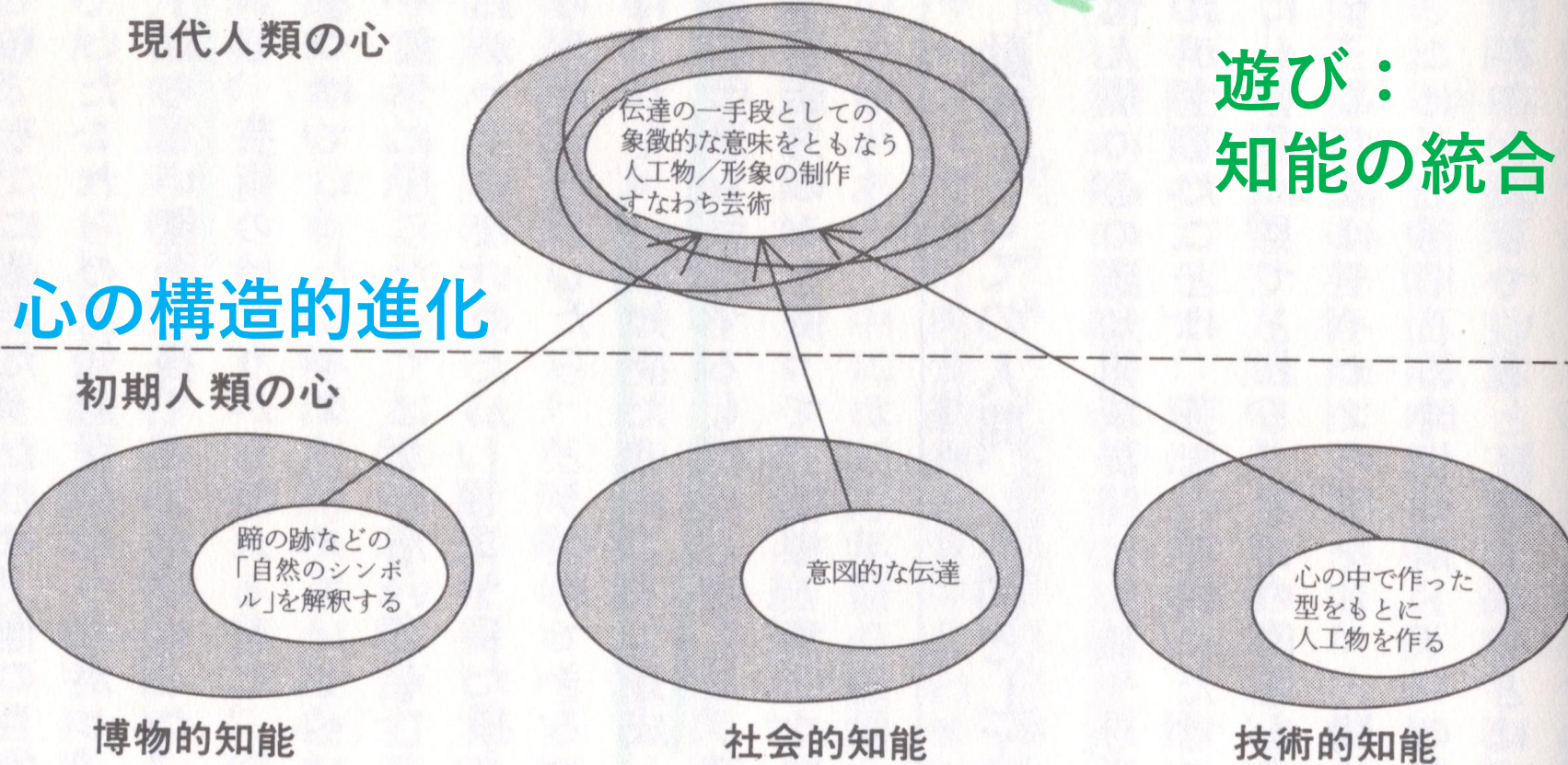
オルドヴァイ石器



握斧とルヴァロワ剥片



認知的流動性の産物としての芸術



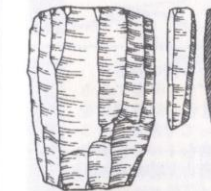
道具を自然物から作る加工技術の発達

(Mithen1996改変)

木製の遺物



刃の技術



骨角器



美術、装飾品



コンピューターなど
現代の小道具





狩猟採集民のアート

統合的な心の構造

アルタミラ洞窟の絵、
旧石器時代末期18,000~10,000年前





アダムとイブの楽園追放

M. シャガール：南フランス、ニースの
シャガール美術館所蔵。

注：神は知恵を得たアダムとイヴを楽園
から追放した。



バベルの塔

P. ブリューゲル：オーストリア、ウィーンの美術
史博物館所蔵

注：神は人々の言葉を乱して、人々を各地に散ら
ばせた。

花を愛でて楽しむ 美を求める

- 五節供：七草、桃（雛祭り）、菖蒲（端午）、笹（七夕）、菊（重陽）
梅、桜（花見）、山菜採り、茸狩り、紅葉狩り。
- 花合わせ、菊花人形、盆栽、
- 薬玉、季節の食べ物
- 家紋、家名；植物が多い
- 庭造り、家造り、街造り

北斎、広重の浮世絵；

ゴッホの憧憬する花のように生きる日本人
(週刊美術館)

やまとたましひ；

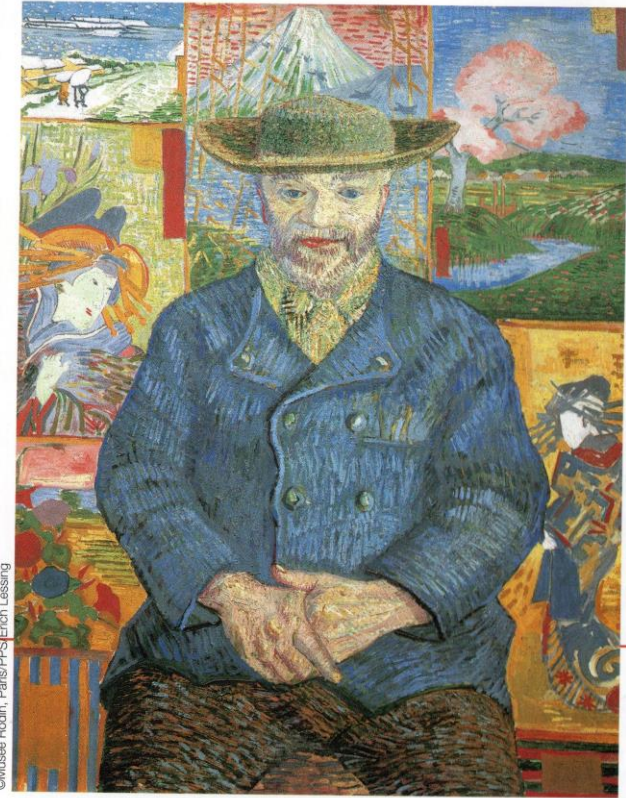
平和でのどかな心の持ちかた、思慮分別、事に処して行く才能、このはたらきは学才を基礎としないと適切十分に発動しない。

(桜井満)

パリの画材店の主人タンギーは、ゴッホが心寄せていた人物のひとり。あくまで小市民として自然のなかで生きる彼の生き方を、日本人のそれと重ねてみていたのだろうか。タンギーの背景には6枚の浮世絵が描かれた。右上は広重『五十三次名所図会、石薬師』、左中段は歌川国貞『三浦屋高尾』、右下は溪斎英泉『雲龍打掛の花魁』。また、左下は2代広重『東京名所三十六花撰、東都入谷朝顔』と思われる。



2代歌川広重
『東京名所三十六花撰、
東都入谷朝顔』19世紀半ば 錦絵
神奈川県立博物館



心理学用語

語彙		語義	特性
嫉妬	jealousy	嫉む	第三者関係
		妬む	
羨望	envy	悪性、悪意	二者関係
		良性、昇華	好敵手として目標に鍛錬する。 代償行動（置き換え）
保身	self-protection	自己	自己・個人の存在を保つ。
		組織ムラ・シマ	組織の利害・損得を守る。

人間ホモ・サピエンスは本来、残虐な性悪な動物で、文化によって性善を進化させてきた。心の構造（知能）を統合し、機能（五感、第六感、第七感）を高めるように、学びを深め、修行しなければならない。

- 誰にも嫉妬、羨望や保身の感情はある（表1）。嫉妬とは、自分よりすぐれたものをねたみそねむこととあるが、本来、この2文字には異なった意味合いがあり、嫉（そね）みは相手を羨ましく思い他の対象に悔しい気持ちをぶつけ、妬（ねた）みは羨ましく思う気持ちで相手に直接的・間接的に憎らしい気持ちをぶつけることであるようだ。保身とは身の安全や地位・名誉などを保つことである（広辞苑）。
- 嫉妬jealousyは第三者関係において、自身の愛する人が別の人に心を寄せることを怖れ、その人をねたみ憎む感情である。羨望envyとも同じような意味合があるが、心理学的には異なる感情である。羨望は自分以外の誰かが望ましいよいものをわがものとしていて、それを楽しんでいることに対する怒りの感情であり、二者関係に基づいている。羨望は最も原始的な悪性の攻撃欲動であり、よい対象を破壊してしまう。嫉妬は愛する対象への愛情は存在していて、よい対象を破壊することはない。羨望を乗り越えたところに発達する情緒として感謝がある。羨望には悪性と良性があると近年は考えられており、良性の羨望は民主主義へと向かわせる原動力だとB.Russell（1930）は言っている（Wikipedia2020.5.27）。
- アリストテレス（前384 - 322）は『弁論術』の記述で、羨望phthonosとは他人の幸運によって引き起こされる痛みであるとし、さらに、キリスト教では七つの大罪の一つとされ、ヒンドゥ教では破壊的な感情とみなされ、歪んだ感情は克服すべきだとしている。イスラム教において羨望Hasaadは心の不純物であり、善行を無に帰するものとしており、仏教では嫉īrṣyāとは富や名声を得るためにひどく熱心で、他人がそれを得ることが我慢できない状態で、この解毒剤は相手の幸福をともに喜ぶ心（喜無量心）であるとしている（Wikipedia 2020.5.27）。

孟子の言葉は「自ら反省して正しいと思ったら、敵が千万人いても恐れることなく向かっていこう」と解釈されている。

私は孤独が嫌いではない。孤独は自由であり、孤独にならないと内省もできず、創造的な仕事ができないと思う。一方で、集団性動物である人間は孤立して生きることはできず、私とて孤立すれば淋しいし、辛くは思うだろう。

孤独と孤立は似て非なる概念である。広辞苑では孤独を「仲間のないこと、ひとりぼっち」、孤立を「ただひとりで助けのないこと」と解説している。両語彙は一人の点では同義だが、孤立の方は助けがない点で異なっている。

孤独を志向して学び考え、善なる者とつながり 孤立せず、悪なる者を避けるがよい。

生活様式を簡素にする。自給知足

素のままの美しい暮らし *sobibo*

- 過剰な消費欲望を煽らない。金のための仕事は、ほどほどに。嫉妬や羨望を自律制御する。
- 絆と言いながら、人々はつながろうとしない。集団主義と言いながら、実際には孤立している。
- ムラ社会での名利に浸り、社会的共通資本には冷淡である。
- ほとんど誰も責任を取らない。義務と責任の分離。社会的責任が果たされないのなら、社会的義務は失せる)

(二重権力の潜在：水戸学、長州陸軍閥の政治構造、柳田民俗学；稲作単一民族説)

脱亜入欧、和魂洋才、被植民地主義に甘んじて、独立していない。表面だけの欧米賛美で、その心は求めない。翻訳偏重、日本の地道な独自性、独創性を評価できない。ただし、異文化を読書できるのは日本の有意な特性で、世界をつなぐことができる。

表1 田舎と都会の一般化された対比的な見方

凝縮する観念	田舎（農村社会）	都会（工業社会）
良い感情	平和 無垢 淳朴 <u>自然的生活様式</u>	学問 コミュニケーション 光明 <u>人間の創りあげた中心地</u>
<u>敵意を含む連想</u>	後進性 無知 偏狭	騒音 世俗 野心
伝統的対比	無垢 所有関係を黙殺 <u>嫉妬と憎悪が内在</u> <u>肉体的・精神的再生の場</u> 孤絶した自然の多産な生命の場 根本的な生の過程の季節的なリズムの場 耕作地vs汚されていない田舎 過去 白痴、未開人	貪欲 腐敗した都会生活 苦渋と無秩序 機械的秩序 金、法律 富、贅沢；暴徒、大衆；流動化、 <u>孤立</u> 未来
現実の歴史 現代世界	驚くほど多様 中間的な居住地（近郊住宅地、スラム街、工業団地など）	多種多様

ウィリアムス、R.（1973）からまとめた。

教養の低い社会的指導者、政治家、官僚、専門家などが名利に囚われる。

- 1) 虚偽、隠蔽を平然とする良心が弱い、毒人間は4%ほどいる。
- 2) 日本人の多数が権力や権威ある人への信頼を失う。重大犯罪。
どう責任を取るのか？
- 3) 心無いムラ撥撫、共同絶交宣言（犯罪）
- 4) 日本人は、孤立を恐れ、脅しに弱くなった。
- 5) 自粛は自ら進んで慎むこと。しかし、暗に社会的空気による強要がある。

注：自立は自分の力でやっていくこと。（対義語、従属）

自律は自分で決めたルールに従うこと。（対義語、他律）

市民の暮らし

- 1) 事実を見る、聞く、読む、知る、考える、学ぶ、書く、話す。
- 2) 真実を理解し、行動する。
- 3) 幸せな人生を過ごす。

市民と緑・農との共生プロジェクト (新規提案)

小金井環境市民会議内、運営会、まちづくり部会での議論等を踏まえ、多くの市民が環境について関わっていくプロジェクトとして、小金井らしい緑でもある「農」について、立ち上げる。

市民会議に関わる団体や、個人を中心に、広く、勉強会・見学会・体験活動の3点を回して、小金井らしい緑・農との共生のあり方を共有し、担い手育成につなげる。

行動学習プログラム

地域L；協働Cp；保全Cn

基本学習プログラム

自然誌N

関連学習プログラム

生産M

まちづくり部会：アートとしての街づくり 総合的な行動学習プログラム

雨デモ風デモハウス

- エクセルギー・ハウスのコンセプト
ト環境配慮型住宅
- 環境技術；感じ、知り、考える
- ライフスタイルを検証する
- 環境学習を行う
- 担い手をつなぐ

ハケの学校

自然の歴史、文化、地形などを重
ねて考える場として活用したい
トランジション・タウン小金井を広
める

基本学習プログラム

自然誌N；文化誌C

行動学習プログラム

地域L；協働Cp；保全Cn

エネルギー部会の活動

- NP0小金井市民発電：市民が力を合わせて、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及によって、エネルギーの地産地消と地球温暖化防止を目指し、学び合い、実践活動を行って、持続可能な社会づくりにに寄与する。
- 仮想メガソーラー発電所、小規模太陽光発電を連携して、少しでもエネルギーを自給する。

行動学習プログラム
地域L；協働Cp；保全Cn

環境学習都市 小金井

豊かな環境学習の場所、教材、人々；
スタジオ・ジブリ作品群

- 環境教育・学習：小金井環境学習館、江戸東京博物館たてももの園、野川公園、武蔵野公園、小金井公園、市内の小公園。
- 信仰環境：多磨墓地、社寺群、縄文など遺跡群
- 水系：野川、玉川上水、ハケ、仙川、用水路
- 大学・高校：法政大学、国際基督教大学、東京農工大学、東京学芸大学、5専門学校、6高校、



(仮称) 小金井市気候非常事態宣言 (案)

～2050年 二酸化炭素排出実質ゼロを目指して～

近年、世界各地で熱波や干ばつ、大規模な森林火災など、地球温暖化による異常気象が頻発しています。日本各地でも、猛暑や熱帯夜の増加、記録的な集中豪雨や強大化した台風による崖崩れや洪水など、甚大な被害が発生しており、このまま温暖化が進行すると、私たちの市民生活に多大な影響が出るのが予想されています。気候変動による気象災害は極めて深刻で身近に迫った脅威であり、私たちの生存基盤を揺るがす、まさに「気候危機」です。

この危機的状況を脱するために、2015年に国連で採択された「パリ協定」では、産業革命前からの世界の平均気温上昇を2℃より十分低く保つとともに、1.5℃以下に抑える努力を追求する目標が定められています。

しかし、世界の二酸化炭素排出量は今なお増加し続けており、この危機的状況は、私たちの日々の行動が引き起こしているものであることから、今こそ、私たちは気候危機を自らの問題として認識し、経済社会活動やライフスタイルの変革に取り組むなど、気候危機への対策を加速させなければなりません。この非常事態を切り抜けるためには、「一人ひとりから始める意識改革」と「今すぐ行動する」ことが何より重要であり、そのために、幼い頃から地球環境に興味を持ち、自ら積極的に取り組もうとする意欲や態度を醸成する「環境教育」の充実にも注力していきます。

本市の豊かな自然と、この美しい地球環境を将来世代に継承するため、市、市民、教育委員会、事業者等が協働し、温室効果ガスの削減を図る「緩和策」と、気候変動による災害から市民を守る「適応策」に本気で取り組むことを共有するとともに、SDGsの目指す持続可能な社会の実現に向けて、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、ここに気候非常事態であることを宣言します。

令和3年 月 日

小金井市長

西岡真一郎

小金井市教育委員会

教育長

大熊雅士

パブリックコメント募集：

令和3年9月1日（水曜）から令和3年9月30日（木曜）まで

小金井環境市民会議で意見書を提出してはいかがでしょうか。